

# ユーザ主導による香川大学の業務システムアジャイル内製開発

浅木森 浩樹<sup>1,2</sup> 山田 哲<sup>1,2</sup> 矢谷 鷹将<sup>1</sup> 末廣 紀史<sup>1</sup> 武田 啓之<sup>1</sup> 國枝 孝之<sup>1</sup> 米谷 雄介<sup>1</sup> 八重樫 理人<sup>1</sup>

1 香川大学情報化推進統合拠点DX推進研究センター 2 株式会社リコー

## 1. はじめに

- ・香川大学は、ユーザ主導により業務システムをアジャイル内製開発する取り組みを開始した
- ・業務システムのアジャイル内製開発では、ユーザ主導で開発するシステムの要件を抽出するとともに、スクラム開発で業務システムを開発する

## 2. ユーザ主導による業務システムアジャイル内製開発

- ・香川大学では部局横断型の開発体制を整えており、DXラボと各事業部門のメンバーとが一緒になってDXプロジェクトを進めている（図1）
- ・香川大学ではスクラムチーム（図2）で開発をおこなっており、プロダクトオーナーは事業部門のメンバー、スクラムマスターと開発者はDXラボのメンバーが担っている
- ・DXラボの業務システム開発プロセスは、技術検証フェーズ（PoTフェーズ）、期待している効果の検証フェーズ（PoCフェーズ）、実運用フェーズで構成されている（図3）
- ・DXラボの業務システム開発プロセスは、スクラム開発におけるスプリント（図4）に対応しており、スプリントプランニングは案件シートの作成、デイリースクラムは開発にあたり、スプリントレビュー、スプリントレトロスペクティブは技術検証、概念検証にあたる

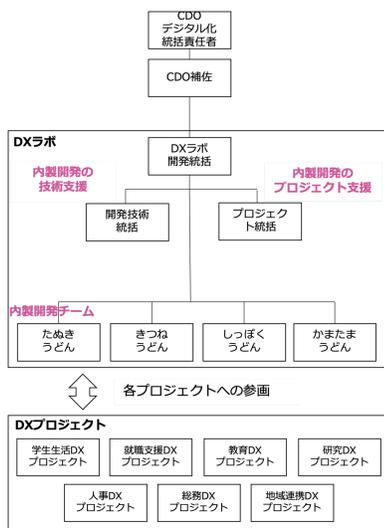


図1 開発体制図

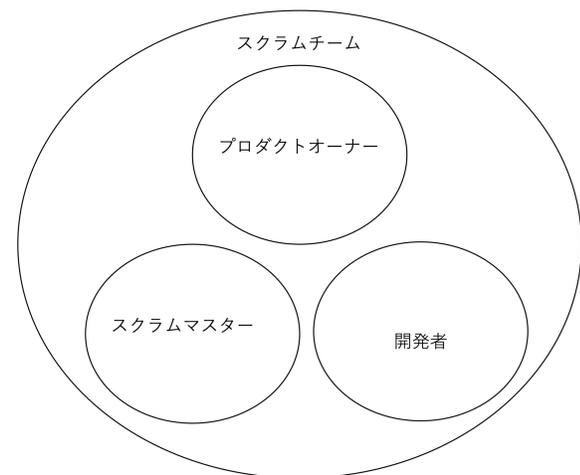


図2 スクラムチーム

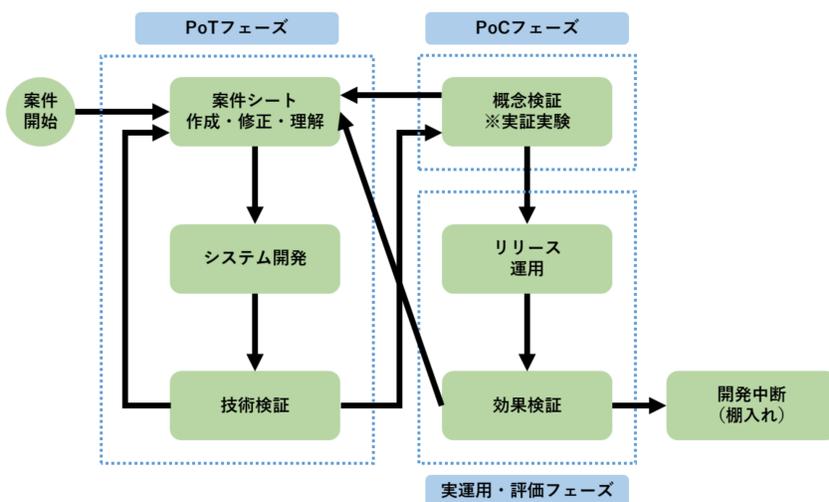


図3 業務システム開発プロセス

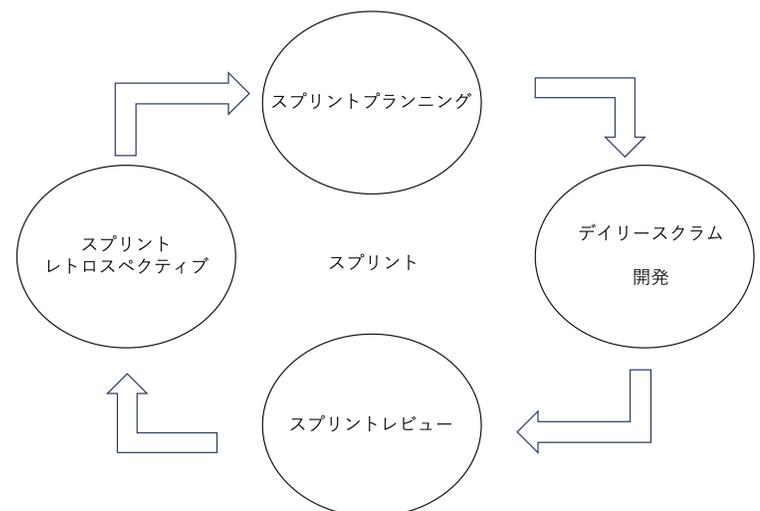


図4 スプリント

## 3. 今後について

- ・香川大学で行われているユーザー主導による業務システムアジャイル開発を水平展開できる手法の検討を進める。
- ・教務システム、人事システム、財務会計システムなどの基幹システムと内製業務システムとのシステム連携を推進する、ユーザ主導による業務システムアジャイル開発手法の検討を進める。